



まちづくりイベントの開催

# まちづくりシンポジウム 2016

～健康・医療・福祉を中心としたまちづくり～

主催：茨城県・取手市・茨城県都市計画協会

## ■まちづくりシンポジウム2016

人口減少・超高齢社会の到来により、これからは高齢者や子育て世代など誰もが安心して快適に生活できるまちづくりが求められています。こうした課題について、県民の皆様と一緒に考えていくことを目的に、平成28年11月12日（土）、取手市取手ウェルネスプラザにおいて、「まちづくりシンポジウム2016」を開催いたしました。

まず、筑波大学大学院の久野譜也教授による基調講演を行い、続いて、まちづくりの分野で幅広く活躍されている方や、地元の取手市でまちづくりに取り組まれている方をパネリストに迎え、「健康・医療・福祉を中心としたまちづくり」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

当日は県内外各地から333名の方に来場いただき、参加者からは「まちづくりが健康づくりに貢献できるという視点が大変参考になった」



「パネルディスカッションでは、様々な方の意見を聞いて勉強になった」「講師やパネラーの方のプレゼンがすばらしかった」「ユーモアを交え、聞いていて楽しかった」等々の感想が寄せられました。

## ○基調講演「自然と健康になれるまちづくり

— Smart Wellness City —

講師 久野 譜也 筑波大学大学院教授

基調講演では、久野譜也講師から、「まちづくりと健康づくりの連携」について、国内外の事例紹介や科学的データを交えながら、解説がありました。



「スマートウェルネスシティ」というのは、「自然に歩いてしまうまち」（「美的景観がよいまち」、「物理的に歩かされてしまうまち」というのが1つの答えである。

「自然に歩いてしまうまちづくり」というのは、過度の自動車依存から脱却するまちづくりである。

また、これからの高齢化社会のあるべきまちは、高齢者が歩いて出たくなるまちである。これは、景観だけではなく、買い物したい店や楽しめる場所、ちょっと休めるベンチやトイレが整備されているまちである。



さらに、今後、車の運転を卒業する方のために「公共交通の整備」も重要。また、バスで移動しても快適だと思われるような環境に変えていかない限り、人は動けない。とのお話もありました。

## ○パネルディスカッション

「健康・医療・福祉を中心としたまちづくり」

コーディネーター

久野 譜也 筑波大学大学院教授

パネリスト

黒崎 誠 帝京大学教授、取手市都市計画審議会会長

椎名 一博 健康寿命デザイン(株)代表取締役社長

奈良 和彦 (一社)茨城南青年会議所 専務理事

横山恵利香 (株)アトレ ボックスヒル取手店 新事業戦略グループ

藤井 信吾 取手市長

パネルディスカッションでは、まず、藤井市長からこれまでの取手市の取組みと現状の課題について、分かりやすくご紹介をいただき、その後、健康・医療・福祉を中心としたまちづくりに必要なことについて、久野コーディネーターと5名のパネリストに議論していただきました。

黒崎氏からは、「よそ者、若者、高齢者が地域づくりの大事なコンセプト」「まちづくりには、多くの能力を持ったお年寄りが自然に社会参加してしまうような仕組みづくりが大切」という意見がありました。

椎名氏からは、TX沿線の千葉県柏の葉でのまちづくりの経験から「最初に人が喜ぶことを思う理念を持ち、ステップを踏んで、初めていいまちづくりができる」「高齢化率が高い郊外のまちにおいては、都市として施設が十分カバーできるかが都市の問題としても大変大きい問題」という意見が出されました。



奈良氏からは、「市の活性化のためには、自分の市で購入することが大事」「市の活性化のために市民の方たちとともに行政に働きかけていくのが私共団体の役割」という意見が出されました。

横山氏からは、「市が抱える色々な課題を、この地域にある資源でどう解決していくのかを、市民の方々のお力をいただき、産官学が連携して取り組んでいかなければならない」「行きたいと思えるような交通手段と産業、点と点をつなぐ手段を作っていきたい」という意見がありました。

藤井市長からは、「市民力がきちんと活かされる地域社会のために、行政も柔軟に動いていきたい」との意見が出されました。また、行政の職員に対し「まちづくりの担当と健康づくりの担当が、課題解決のために、常日頃から対話をしてほしい」とのメッセージもありました。



最後に久野教授が「ハードとソフトがうまく絡み合い、官民が協働で各々の役割を続けることが持続可能な、あるいは健康になるまちづくりになるのでは」「ちょっと不便なまちが健康になれるまちである」と総括されました。

また、まちづくりに多大な貢献があった団体等を表彰する「茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業」の表彰式も併せて行われ、まちづくりグリーンリボン賞5件、まちづくりグッドサイン賞1件が表彰されました。

#### ○茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業表彰式



#### まちづくりグリーンリボン賞 5件

##### ・新型観光バス「葵」導入事業

受賞者：茨城交通(株)

##### ・古河第一小学校校舎改築事業

受賞者：古河市、(有)長塚建築設計事務所、株木・旭特定建設工事共同企業体

##### ・取手ウェルネスプラザ整備事業

受賞者：取手市、山下・根本設計共同企業体、常総・赤塚特定建設工事共同企業体

##### ・常陸大子駅改修事業

受賞者：東日本旅客鉄道(株)水戸支社、東鉄工業(株)水戸支店

##### ・境町文化村オープン・リノベーション事業

受賞者：境町、(株)福島工務店

#### まちづくりグッドサイン賞 1件

##### ・水府橋モニュメント設置事業

受賞者：水府橋モニュメント検討会、(株)アコオ



新型観光バス「葵」導入事業（水戸市）



古河第一小学校校舎改築事業（古河市）



取手ウェルネスプラザ整備事業（取手市）



常陸大子駅改修事業（大子町）



境町文化村オープン・リノベーション事業（境町）



水府橋モニュメント設置事業（水戸市）